

# 福島県福島市バリアフリーマスタープラン(R3.6策定)

人口:275,646人(R2時点) 面積:767.72km<sup>2</sup>

## 基本情報

### <趣旨>

・国や県、民間企業・関係団体などと連携の強化を図り、市民（住む人）と本市への来訪者（来る人）のバリアフリーニーズを掘り起こし、**官民一体となったソフト・ハード両面のバリアフリーを実践**する。  
→東京オリンピック・パラリンピックの**レガシーのひとつとして次世代へつなげていく**ことを目標にしている。

### <方針>

- 基本理念 **「誰にでもやさしいまち ふくしま」**
- 基本方針
  - ・心のバリアフリーの推進
  - ・多くの人が参画するバリアフリーへの取り組み
  - ・ユニバーサルデザインによるまちづくり
  - ・わかりやすいバリアフリー環境の形成
  - ・継続的・段階的なバリアフリー化の推進

## 作成するにあたって

### <作成のきっかけ>

・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした共生社会を推進する重点的な取り組みの一つとして、バリアフリーマスタープランを策定。  
(R2.3に先導的共生社会ホストタウンに認定。)

### <作成過程>

・福島市地域公共交通活性化協議会（R2.1実施）から検討され、R3.6に策定。

会議体は、福島市地域公共交通活性化協議会（5回実施）と庁内連絡会議（6回実施）

・**官民一体となったソフト・ハード両面のバリアフリー化**を図るため、企業・団体など263団体（R3.3末現在）で構成する「**バリアフリー推進パートナー**」と共に、バリアフリー推進に取り組んでいる。

→バリアフリー推進パートナーが参加し、ハード・ソフト両面での情報交換や意見交換、研修会などをR1年から行っている。（**バリアフリーパートナーミーティング**）

・バリアフリーに関する市民や利用者の意見を本計画に反映するため、15歳以上の市民を対象に**アンケート**を実施。

・旅客施設、移動経路、生活関連施設のバリアフリー状況を確認するため、**まち歩き点検**を障害者団体と実施。

→障害者団体と交通担当部署とは交流が少なかったため、最初はコミュニケーションに苦労したが、**まち歩き点検や意見交換を重ねることでお互いのバリアが消え、建設的な意見に繋がり、バリアフリーの推進を円滑に進めることができた。**

・まち歩き点検実施後に**ワークショップ**を行い、**まち歩き点検で気づいた点や移動等円滑化促進地区の設定の考え方**などを共有した。

## 移動等円滑化促進地区

- 中心市街地地区** ○**飯坂温泉地区** ○**土湯温泉地区**
- 高湯温泉地区** ○**花見山周辺地区** ○**あづま総合運動公園周辺地区**

### ・選定理由

①中心市街地地区は、旅客施設や医療施設など都市機能が集積し、関連計画である福島市立地適正化計画の都市機能区域にも設定されており、ユニバーサルデザインの視点に立ったバリアフリー化の促進など、人に優しいまちづくりにおける先導的な施策展開を図る地区

②3つの温泉地区は、観光客入込数が多く、市民アンケートにおける「バリアフリー化が必要と思う観光地」の中でも、多くの意見が寄せられた地区

③福島市観光振興計画において、花見山周辺におけるバリアフリー観光を推進している地区

④あづま総合運動公園周辺地区は、東京2020オリンピック競技大会野球・ソフトボール競技の開催地区であり、また、観光地・イベント別観光客入込数において、最も利用数の多い地区

## 策定後の動き

・マスタープランの基本方針で位置づけた**心のバリアフリー**をはじめ**ハード・ソフト事業**をより一層推進するため、**バリアフリー基本構想の策定**に取り組む。

### <これから作成する市町村へのアドバイス>

・マスタープラン策定にあたり、**部局を横断する体制と、企業・団体などで構成する組織を構築し、官民が一体となって取り組むこと**で、作成がスムーズに進んだ。